

2021 年度日本天文学会天文教育普及賞

【授賞者】 名古屋市科学館 天文指導者クラブ (ALC)

【活動名】 長年にわたるボランティア組織としての天文教育普及活動への貢献

名古屋市科学館は国内有数の規模と実績を誇る総合科学館である。1962年に「天文館」が開館して以降、1964年に「理工館」、1989年に「生命館」が開館した。天文館と理工館は2011年にリニューアルし、プラネタリウムや天文展示、大学との連携など学芸員らによる優れた博物館活動が行われている。

名古屋市科学館では市民が参加したボランティア活動も活発である。ボランティア組織では「展示室」「ものづくり」「天文」の3分野あり、中でも一番歴史が古く、他のボランティアの範となっているのが天文指導者クラブ (Astronomical Leader's Club: ALC (アルク)) である。ALCは市民観望会などの行事で、望遠鏡の操作などを通じて天文事業をサポートする教育ボランティア組織である。

ALCの前身のリーダー会は、1972年発足し、市立名古屋科学館(当時)のなかよし大観望会や、星の会(当時)の小中学生を指導するリーダーとして、大学生・大学院生から組織され、その後、天文クラブ中学生クラスの天体観測研修会のリーダーなどを通じて組織が充実・拡充した。1986年には旧理工館屋上に天文台が整備され、定例行事としての市民観望会や昼間の星をみる会などが始まった。これらの行事でALCの活動の場が広がったことから翌1987年、名古屋市公認ボランティア団体となって、社会人のメンバーも受け入れるようになり現在に至っている。会員は現在約140名、高校生から退職後の方まで、年齢的にも幅広い会員構成になっている。知識や技量を問わず広く募集を行い、資格を得るための講座を開催し、終了後にボランティアとして認定するというスタイルは、現在各地の天文台・科学館等で開かれている星空案内人資格認定制度(2003年開始)とよく似ているが、それよりも15年以上前から独自のメニューで、地域密着型として天文教育普及活動を続けている。そして団体名に「指導者」が含まれているように、科学館での活動だけでなく地域の教育活動のリーダーとしての活躍も期待されている。またALCは、団体として1993年に名古屋市教育委員会表彰、1995年には(光害啓発の)星空継続観察で環境庁長官賞を受賞するなど、年間120万人近い来館者の名古屋市科学館の教育活動において、欠くことの出来ないボランティア団体となっている。ALCからは、天文学の研究者、名古屋市科学館をはじめとする学芸員、天文関係の企業等で活躍する人も輩出している。

その前身から数えると50年という長期のわたる地道な活動は、天文教育普及賞の候補としてふさわしいと考え、ここに2021年度天文教育普及賞を授与する。